

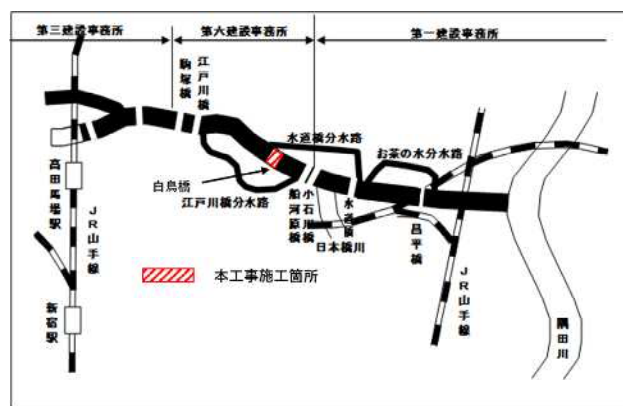
白鳥橋撤去工事に伴う通行止めにおける住民との合意形成

1. はじめに

東京都では台風や集中豪雨による水害から都民の命と暮らしを守り、1時間に50mmの降雨により発生する洪水に対して安全を確保するため、河川整備を実施している。

神田川においても洪水対策として、河道拡幅、河床掘削、分水路、地下調節池を整備している。神田川はその源を三鷹市の井の頭池に発し、善福寺川、妙正寺川を合流しながら東京都の中心部を流れ、下流部で日本橋川を分派したのち、隅田川に合流する延長24.6km、流域面積105K㎡の一級河川である。第六建設事務所管内の整備区間は文京区後楽一丁目の小石川橋上流から文京区関口一丁目の駒塚橋上流までの延長約3,060mであり（図一1）、ほぼ全区間に渡り首都高速道路が上空を占有している。また、神田川と並行して都道目白通りと左右岸の護岸背面には江戸川橋分水路、水道橋分水路が近接している（図一2）。

このような厳しい現場環境の中、未整備区間の一つである文京区後楽二丁目から新宿区新小川町までの白鳥橋架け替えとその上下流の護岸整備に着手し、現在、施工中である。本発表では白鳥橋撤去に伴う通行止めにおける住民との合意形成の取り組みについて報告する。



図一1 神田川における第六建設事務所の整備範囲

2. 工事概要

工事件名：神田川整備工事（その43）その2

工事箇所：東京都文京区後楽二丁目から

新宿区新小川町地内まで

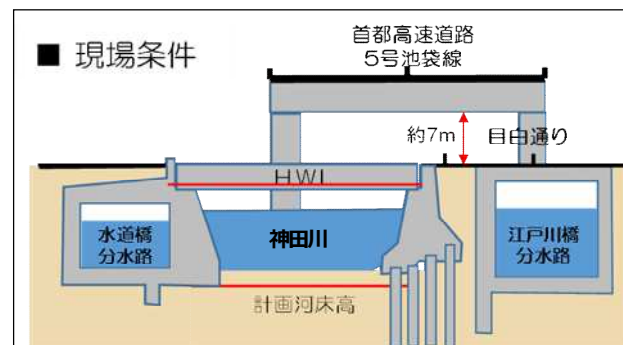
工 期：令和5年10月6日から令和9年2月26日まで

概 要：計画断面確保のため白鳥橋と既設護岸を撤去し、新しい護岸と橋台を構築（図一3）

【工事用道路工事】道路工、道路付属物工、仮設工

【白鳥橋撤去工事】作業土工、旧橋撤去工、橋台構築工ほか

【神田川護岸工事】河川土工、既設護岸撤去工、護岸工ほか

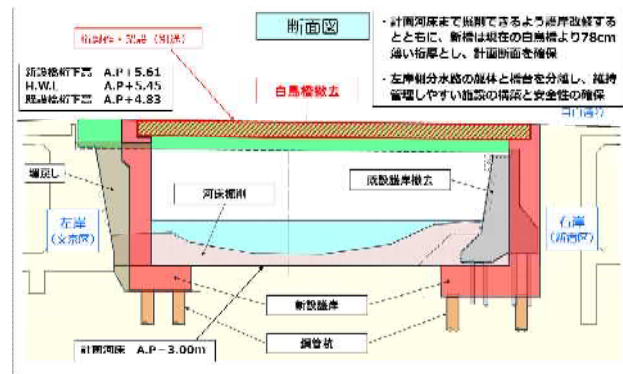


図一2 本工事の現場条件

3. 住民理解の取り組み

3. 1 住民説明会の開催（令和6年3月6日）

住民説明会では、神田川の護岸整備の必要性、本工事の



図一3 白鳥橋部分の断面図

工事概要、白鳥橋の通行止めを含む具体的な施工内容について説明を行った。住民説明会の参加者からは様々な意見や要望を受けたが、いずれについても丁寧に説明し、工事に対する反対意見はなかった。

3. 2 「工事のお知らせ」配布（令和6年6月）

住民説明会の後、関係部署との調整が整い、各町会を通じて近隣住民に「工事のお知らせ」を配布したところ、住民説明会に参加していない方々より下記の要望が寄せられた。

（1）歩行者用の仮橋を架けて利便性を確保

（2）地元はもとより、外部から通り抜ける車両への周知

（3）白鳥橋の通行止めに伴い、新宿区側の都バス利用者が対岸の「大曲バス停」に到達が困難

（1）については神田川護岸背後の都道には歩道がなく、首都高出入口もあり歩行者空間が確保できないことや、白鳥橋撤去跡地は工事用の仮設構台を設置することから、仮橋は設置できないことを説明し理解を頂いた。

（2）については「通行止め」の予告看板や横断幕を周辺都道、区道合わせ30か所に設置し、白鳥橋の通行止めを広く周知した。また、三建、六建HP、建設局X、Facebookに掲載した。

（3）東京都交通局と協議を行い、他の橋を迂回したバスが新宿区側の白鳥橋付近でも停車することや他のバス停の利用を促すビラを地域の約3,000戸に投函すると同時に、バスの迂回について都バスHP、車内及びバス停に掲示した。

3. 3 「白鳥橋お別れ会」の開催（令和6年8月3日）

地域住民に白鳥橋の通行止めを再認識してもらい、地域の子供たちに河川整備の重要性を学習してもらう良い機会と捉え、「白鳥橋お別れ会」を開催した。また、併せて建設業の魅力発信も行った。

当日は気温30℃を超える暑さにもかかわらず、約400名の方が駆けつけ、路面とメッセージボードに白鳥橋への感謝や工事関係者への励ましのメッセージを残してくれた

（写真一1）。また、神田川整備事業について職員に熱心に質問する住民の姿も見られ、工事に対する関心の高さも伺い知ることができた。



写真一1 白鳥橋に書かれたメッセージ

3. 4 白鳥橋で発見された都電の遺構（レール及び敷石）の公開と譲渡（令和6年10月15日、16日）

白鳥橋の撤去に先立ち舗装を撤去したところ、昭和43年まで白鳥橋上を運行していた都電のレールと敷石が当時のままの状態で見つかった。本件については、社会的関心が高いことを考慮し、一般への公開に至った。

一般公開当日は平日の開催にも関わらず、2日間で延べ約2,000名の方が駆けつけた（写真一2）。

また、マスコミにも取り上げられ、X、Facebook、YouTube等のSNSでも話題となった。また、研究や広く展示する場合に限り、レール及び敷石を譲渡した。



写真一2 都電遺構の公開日の様子

4. おわりに

白鳥橋は神田川の護岸整備において、約4年という長期にわたりを通行止めとなる。通行止めにあたり地域住民に理解を得るために様々な取り組みを行ってきた。これまで述べてきた、取り組みを行った結果、工事に対する苦情は徐々に減っていった。私はこれらの取り組みに携わることで、普段の生活では決して関わることもない人々との繋がりを学んだ。この経験を活かし引き続き神田川の整備が円滑に進むよう、取り組んでいきたい。